

証明：定義から明らか.

命題 3.3. λ 式 M と N について,

$$[M, N] \equiv \lambda z. zMN$$

と定義し,

$$\mathbf{fst} \equiv \lambda x. x \mathbf{true}, \quad \mathbf{snd} \equiv \lambda x. x \mathbf{false}$$

と定義すると,

$$\mathbf{fst} [M, N] = M \quad \text{と} \quad \mathbf{snd} [M, N] = N$$

が成り立つ. すなわち, $[M, N]$ は順序対.

証明：定義から明らか.

3.3.4 関数の再帰定義

例 : $\mathbf{fact}(n) = \mathbf{if } n = 0 \mathbf{ then } 1 \mathbf{ else } n * \mathbf{fact}(n - 1)$

- 高階関数 F を

$$F(f)(n) = \mathbf{if } n = 0 \mathbf{ then } 1 \mathbf{ else } n * f(n - 1)$$

と定義すると, \mathbf{fact} は, 次の等式を満たす f である.

$$F(f) = f$$

例 :

$$\begin{aligned} f(2) &= F(f)(2) = 2 * f(1) \\ 2 * F(f)(1) &= 2 * 1 * f(0) \\ 2 * 1 * F(f)(0) &= 2 * 1 * 1 = 2 \end{aligned}$$

- $F(f) = f$ を満たす f を F の**不動点**と呼ぶ.

命題 3.4. λ 式 \mathbf{Y} を

$$\mathbf{Y} \equiv \lambda f. (\lambda x. f(xx))(\lambda x. f(xx))$$

と定義すると, 任意の λ 式 M について,

$$M(\mathbf{Y}M) = \mathbf{Y}M$$

が成り立つ. すなわち, 任意の λ 式について, その不動点が存在する.

- \mathbf{Y} は, **不動点コンビネータ** (*fixed point combinator*) と呼ばれる.

証明 :

$$\begin{aligned} \mathbf{Y}M &= (\lambda x. M(xx))(\lambda x. M(xx)) \\ &= M((\lambda x. M(xx))(\lambda x. M(xx))) \\ &= M(\mathbf{Y}M) \end{aligned}$$

系 3.1. 任意の λ 式 M について,

$$H = \lambda x_1 \dots x_n. M[h := H]$$

を満たす λ 式 H が存在する.

証明 : $H \equiv \mathbf{Y}(\lambda h x_1 \dots x_n. M)$ とおくと, 命題 3.4 によって,

$$H = (\lambda h x_1 \dots x_n. M)H$$

したがって, $H = \lambda x_1 \dots x_n. M[h := H]$ が得られる.

例：階乗の計算

$$H_{\text{fact}} = \lambda x. \text{if } (\text{iszero}_c x) \text{ then } c_1 \\ \text{else } (\mathbf{A}_* x (H_{\text{fact}} (\text{pred}_c x)))$$

- 系 3.5.3 から、この等式を満たす λ 式 H_{fact} が存在するので、 fact は、 λ 式 H_{fact} で表される。

3.4 簡約

β 変換を、計算の観点から再考する。

- $(\lambda x.M)N$ から $M[x := N]$ への変換：

記法 : $(\lambda x.M)N \rightarrow M[x := N]$

読み方 : $(\lambda x.M)N$ は $M[x := N]$ へ**簡約** (reduction) される。

例 :

$$\begin{aligned} \mathbf{A}_+ \mathbf{c}_2 \mathbf{c}_1 &\equiv (\lambda)xy pq.xp(ypq))\mathbf{c}_2\mathbf{c}_1 \\ &\rightarrow (\lambda ypq.\mathbf{c}_2p(ypq))\mathbf{c}_1 \\ &\rightarrow \lambda pq.\mathbf{c}_2p(\mathbf{c}_1pq) \\ &\rightarrow \lambda pq.(\lambda x.p^2(x))(\mathbf{c}_1pq) \\ &\rightarrow \lambda pq.p^2(\mathbf{c}_1pq) \\ &\rightarrow \lambda pq.p^2((\lambda x.px)q) \\ &\rightarrow \lambda pq.p^2(pq) \\ &\equiv \lambda pq.p^3(q) \\ &\equiv \mathbf{c}_3 \end{aligned}$$

- 簡約：ある式の部分式を別の式に置き換える操作。 β 変換に関する簡約だけを扱うので、以降、 \rightarrow の代わりに \rightarrow_β を使う。

定義 3.6. λ 式間の二項関係： \rightarrow_β , \twoheadrightarrow_β , $=_\beta$

1. \rightarrow_β :

- (a) $(\lambda x.M)N \rightarrow M[x := N]$
- (b) $M \rightarrow_\beta N \Rightarrow LM \rightarrow_\beta LN$
- (c) $M \rightarrow_\beta N \Rightarrow ML \rightarrow_\beta NL$
- (d) $M \rightarrow_\beta N \Rightarrow \lambda x.M \rightarrow_\beta \lambda x.N$

2. \twoheadrightarrow_β : $M \equiv M_0 \rightarrow_\beta M_1 \rightarrow_\beta \cdots \rightarrow_\beta M_n \equiv N$ ($n \geq 0$) のとき $M \twoheadrightarrow_\beta N$

3. $=_\beta$: 二項関係 \leftrightarrow_β を “ $M \leftrightarrow_\beta N \Leftrightarrow M \rightarrow_\beta N$ あるいは $N \rightarrow_\beta M$ ” と定義して、

$$M \equiv M_0 \leftrightarrow_\beta M_1 \leftrightarrow_\beta \cdots \leftrightarrow_\beta M_n \equiv N \quad (n \geq 0)$$

のとき、 $M =_\beta N$ と定義する。

- $M \twoheadrightarrow N$ の読み方： M は N に β **簡約** (β -reduction) される。(このとき、 $M \rightarrow_\beta N$ は、“ M は N に **1 ステップで** β 簡約される” と読む)
- $M =_\beta N$ の読み方： M は N に β 変換可能である ($M =_\beta N$ は、形式体系 λ に一致)。

$$\lambda \vdash M = N \Leftrightarrow M =_\beta N$$

定義 3.7. 1. $(\lambda x.M)N$ の形の λ 式を β **リデックス** (β -redex) と呼び、 $M[x := N]$ をその**コントラクタム** (contractum) と呼ぶ。

2. β リデックスを部分式にもたない λ 式を β **正規形** (β -normal form) と呼ぶ。

3. λ 式 M について、ある β 正規形 N が存在して、 $M =_\beta N$ のとき、 M は β **正規形をもつ**、あるいは、**正規形をもつ**という。

正規形をもつ例 : $A_+ c_2 c_1 \rightarrow_{\beta} c_3$

正規形をもたない例 :

$$\begin{aligned} (\lambda x.xx)(\lambda x.xx) &\rightarrow_{\beta} (\lambda x.xx)(\lambda x.xx) \rightarrow_{\beta} \dots \\ (\lambda x.xxx)(\lambda x.xxx) &\rightarrow_{\beta} (\lambda x.xxx)(\lambda x.xxx)(\lambda x.xxx) \rightarrow_{\beta} \dots \end{aligned}$$

β 簡約の仕方による例 :

$$\begin{aligned} (\lambda yz.z)((\lambda x.xx)(\lambda x.xx)) &\rightarrow_{\beta} \lambda z.z \\ (\lambda yz.z)((\lambda x.xx)(\lambda x.xx)) &\rightarrow_{\beta} (\lambda yz.z)((\lambda x.xx)(\lambda x.xx)) \rightarrow_{\beta} \dots \end{aligned}$$

3.4.1 簡約戦略

- β リデックスが複数ある場合, β 簡約操作は 1 通りではない. $\Rightarrow \beta$ 正規形は 1 つに決まるのか?

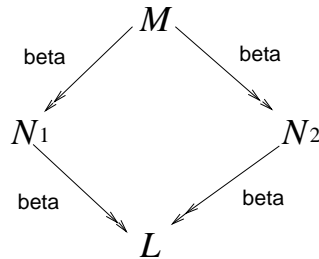
例: 2 通りの β 簡約が可能

$$\begin{aligned} (\lambda x.(\lambda y.yx)x)(\lambda z.z) &\rightarrow_{\beta} (\lambda x.xx)(\lambda z.z) \\ &\rightarrow_{\beta} (\lambda z.z)(\lambda z.z) \\ &\rightarrow_{\beta} \lambda z.z \\ (\lambda x.(\lambda y.yx)x)(\lambda z.z) &\rightarrow_{\beta} (\lambda y.y(\lambda z.z))(\lambda z.z) \\ &\rightarrow_{\beta} (\lambda z.z)(\lambda z.z) \\ &\rightarrow_{\beta} \lambda z.z \end{aligned}$$

定理 3.1. チャーチロッサー定理 (Church-Rosser theorem)

$M \rightarrow_{\beta} N_1$ かつ $M \rightarrow_{\beta} N_2$ ならば, ある λ 式 L が存在して $N_1 \rightarrow_{\beta} L$ かつ $N_2 \rightarrow_{\beta} L$ が成り立つ. ■

- M から β 簡約を始めて, N_1 と N_2 の異なる λ 式に到達しても, 再び β 簡約で同一の λ 式 L に合流させることができることを意味している.
- この性質は, **チャーチ・ロッサー性 (Church-Rosser property)** あるいは **合流性 (confluence)** と呼ばれる.



- M が β 正規形をもてば, M から出発して β 簡約によって, 正規形を得ることができる. $\Rightarrow \beta$ 簡約の各ステップで適切に選択しなかった場合, β 正規形に到達しないこともある.

$$\begin{aligned} (\lambda xy.y)((\lambda x.xxx)(\lambda x.xxx)) &\rightarrow_{\beta} (\lambda xy.y)((\lambda x.xxx)(\lambda x.xxx)(\lambda x.xxx)) \\ &\rightarrow_{\beta} \dots \end{aligned}$$

- 簡約の各ステップにおけるリデックスの選び方を, **簡約戦略 (reduction strategy)** と呼ぶ.

定義 3.8. 最左簡約 (最左最外簡約) : 最も左にあり, 最も外側の β リデックスをそのコントラクトムで置き換える簡約戦略を, **最左戦略 (leftmost strategy)** と呼び, 最左戦略に基づいた β 簡約を **最左簡約 (leftmost reduction)** と呼ぶ.

適用順序簡約 (最左最内簡約) : 最も左にあり, 最も内側の β リデックスをそのコントラクトムで置き換える簡約戦略を, **適用順序戦略 (applicative order strategy)** と呼び, 適用順序戦略に基づいた β 簡約を **適用順序簡約 (applicative order reduction)** と呼ぶ.

値呼出し : 適用順序簡約で, λ 抽象内を評価しないものを **値呼出し (call by value)** と呼ぶ. ■

定理 3.2. 正規化定理 (normalization theorem) M が β 正規形 N をもてば、最左戦略で、 N が求まる。

- M の β 正規形は、存在すれば、最左戦略で見つかるので、最左簡約を**正規化簡約 (normal reduction)** と呼ぶ。

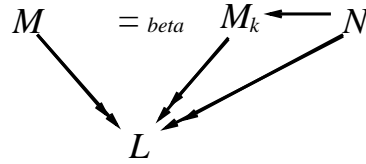
3.4.2 チャーチ・ロッサーの定理から得られる結果

系 3.2. $M =_{\beta} N$ ならば、ある λ 式 L が存在して、 $M \rightarrow_{\beta} L$ かつ $N \rightarrow_{\beta} L$

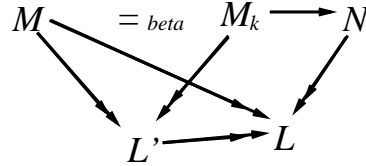
証明：

$M =_{\beta} N$ の定義から、 $M \equiv M_0 \leftrightarrow_{\beta} M_1 \leftrightarrow_{\beta} \cdots \leftrightarrow_{\beta} M_n \equiv N$ であるので、 n に関する帰納法で証明する。

1. $n = 0$ のとき、明らか。
2. $n = k$ ($M =_{\beta} M_k \equiv N$) のとき成り立つとすると、 $n = k + 1$ ($M_k \leftrightarrow_{\beta} M_{k+1}$) のとき、 $M_k \rightarrow_{\beta} M_{k+1}$ と $M_k \leftarrow_{\beta} M_{k+1}$ に場合分けして考える。
 $M_k \leftarrow_{\beta} M_{k+1}$: 仮定から、ある λ 式 L が存在して、 $M \rightarrow_{\beta} L$ かつ $M_k \rightarrow_{\beta} L$ であり、 $M_k \leftarrow_{\beta} M_{k+1}$ から、 $M_{k+1} \rightarrow_{\beta} M_k \rightarrow_{\beta} L$ 。したがって、 $M_{k+1} \rightarrow_{\beta} L$ 。



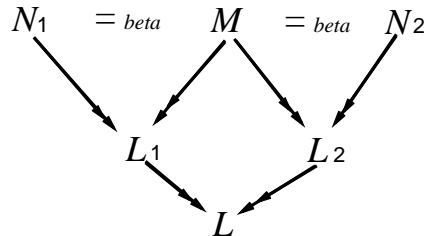
$M_k \rightarrow_{\beta} M_{k+1}$: 仮定から、ある λ 式 L' が存在して、 $M \rightarrow_{\beta} L'$ かつ $M_k \rightarrow_{\beta} L'$ 。また、チャーチ・ロッサーの定理から、ある λ 式 L が存在して、 $L' \rightarrow_{\beta} L$ かつ $N \rightarrow_{\beta} L$ 。したがって、 $M \rightarrow_{\beta} L$ 。



系 3.3. 1. 各 λ 式は、高々 1 つの β 正規形をもつ。
 2. λ 式 M が β 正規形 N をもてば、 $M \rightarrow_{\beta} N$ 。

証明：

1. M が 2 つの正規形 N_1 と N_2 をもつと仮定すると、系 3.2 から、ある λ 式 L_1 と L_2 が存在して、 $M \rightarrow_{\beta} L_1$, $N_1 \rightarrow_{\beta} L_1$, $M \rightarrow_{\beta} L_2$, $N_2 \rightarrow_{\beta} L_2$ 。チャーチ・ロッサーの定理から、ある λ 式 L が存在して、 $L_1 \rightarrow_{\beta} L$ かつ $L_2 \rightarrow_{\beta} L$ なので、 $N_1 \rightarrow_{\beta} L$ かつ $N_2 \rightarrow_{\beta} L$ 。しかし、 N_1 と N_2 は、 β 正規形なので、 $N_1 \equiv L \equiv N_2$ 。



2. N は M の β 正規形なので、 $M =_{\beta} N$ 。したがって、系 3.2 から、ある λ 式 L が存在して、 $M \rightarrow_{\beta} L$ かつ $N \rightarrow_{\beta} L$ 。しかし、 N は β 正規形なので $L \equiv N$ 。すなわち、 $M \rightarrow_{\beta} N$ 。

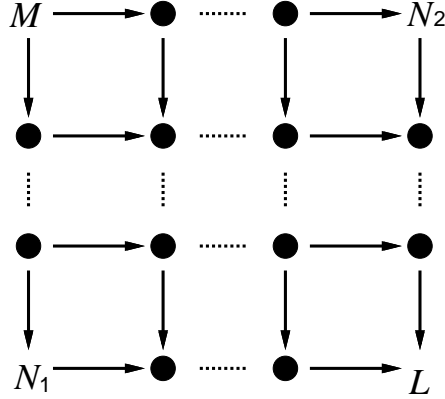
系 3.4. $\lambda \vdash M = N$ を満たさない λ 式 M と N が少なくとも 1 組存在する (形式体系 λ は**無矛盾 (consistent)** であるという)。

証明：例えば、 $\lambda x.x = \lambda xy.y$ は、形式体系 λ から導出できない。もし、導出できたと仮定すると、 $\lambda x.x =_{\beta} \lambda xy.y$ 。しかし、 $\lambda x.x$ と $\lambda xy.y$ は β 正規形であり、系 3.3 の 1 に矛盾。

3.4.3 チャーチ・ロッサーの定理の証明

補題 3.1. \rightarrow_R を λ 式間の二項関係とし、 $M \equiv M_0 \rightarrow_R M_1 \rightarrow_R \cdots \rightarrow_R M_n \equiv M$ ($n \geq 0$) のとき、 $M \twoheadrightarrow_R N$ と書くことにする。このとき、 \twoheadrightarrow_R が、

1. $M \rightarrow_R N_1$ かつ $M \rightarrow_R N_2$ ならば、ある λ 式 L が存在して、 $N_1 \rightarrow_R L$ かつ $N_2 \rightarrow_R L$ を満たすならば、 \rightarrow_R はチャーチ・ロッサー性を満たす。すなわち、
2. $M \twoheadrightarrow_R N_1$ かつ $M \twoheadrightarrow_R N_2$ ならば、ある L が存在して、 $N_1 \twoheadrightarrow_R L$ かつ $N_2 \twoheadrightarrow_R L$ 。



証明： \rightarrow_{β} が、補題 3.1 を満たせば、証明はできたことになるが、 \rightarrow_{β} はこの性質を満たさない。そこで、 \rightarrow_{β} を基に、 \rightarrow_p を次のように定義する。

- 定義 3.9.**
1. $M_1 \rightarrow_p N_1$, $M_1 \rightarrow_p N_2 \Rightarrow (\lambda x.M_1)M_2 \rightarrow_p N_1[x := N_2]$
 2. $M_1 \rightarrow_p N_1$, $M_2 \rightarrow_p N_2 \Rightarrow M_1M_2 \rightarrow_p N_1N_2$
 3. $M_1 \rightarrow_p N_1 \Rightarrow \lambda x.M_1 \rightarrow_p \lambda x.N_1$
 4. $x \rightarrow_p x$

● \rightarrow_p は、 λ 式に含まれる複数の β リデックスを、一度にコントラクトに置き換えることを意味する。

補題 3.2. $M \rightarrow_p M'$ かつ $N \rightarrow_p N'$ ならば、 $M[x := N] \rightarrow_p M'[x := N']$ 。

証明： $M \rightarrow_p$ に関する帰納法を用いる。

1. $M \equiv (\lambda z.M_1)M_2 \rightarrow_p M'_1[z := M'_2] \equiv M'$ ($M_1 \rightarrow_p M'_1$ かつ $M_2 \rightarrow_p M'_2$) のとき、仮定から、

$$M_1[x := N] \rightarrow_p M'_1[x := N'], \quad M_2[x := N] \rightarrow_p M'_2[x := N']$$

一般性を失うことなく、 $z \notin \text{FV}(N)$ と仮定して、

$$\begin{aligned} M[x := N] &\equiv (\lambda z.M_1[x := N])(M_2[x := N]) \\ &\rightarrow_p (M'_1[x := N'])(M'_2[x := N']) \\ &\equiv M'[x := N'] \end{aligned}$$

2. $M \equiv M_1M_2 \rightarrow_p M'_1M'_2 \equiv M'$ ($M_1 \rightarrow_p M'_1$ かつ $M_2 \rightarrow_p M'_2$) のとき、仮定から、

$$M_1[x := N] \rightarrow_p M'_1[x := N'], \quad M_2[x := N] \rightarrow_p M'_2[x := N']$$

したがって、

$$\begin{aligned} M[x := N] &\equiv (M_1[x := N])(M_2[x := N]) \\ &\rightarrow_p (M'_1[x := N'])(M'_2[x := N']) \\ &\equiv M'[x := N'] \end{aligned}$$

3. $M \equiv \lambda z.M_1 \rightarrow_p \lambda z.M'_1 \equiv M' (M_1 \rightarrow_p M'_1)$ のとき, 場合 2 と同様.

4. $M \equiv z \rightarrow_p z \equiv M' (x \neq z)$ のとき,

$$M[x := N] \equiv z \rightarrow_p z \equiv M'[x := N']$$

5. $M \equiv x \rightarrow_p x \equiv M'$ のとき,

$$M[x := N] \equiv N \rightarrow_p N' \equiv M'[x := N']$$

■

補題 3.3. $M \rightarrow_p N_1$ かつ $M \rightarrow_p N_2$ ならば, ある λ 式 L が存在して, $N_1 \rightarrow_p L$ かつ $N_2 \rightarrow_p L$

証明: 各 λ 式 M について λ 式 M^* を M の構造に関する帰納法で定義する.

$$\begin{aligned} ((\lambda x.M_1)M_2)^* &\equiv M_1^*[x := M_2^*] \\ (M_1M_2)^* &\equiv M_1^*M_2^* \\ &\quad (M_1 \text{ は } \lambda x.M_3 \text{ の形をしていない}) \\ (\lambda x.M_1)^* &\equiv \lambda x.M_1^* \\ x^* &\equiv x \end{aligned}$$

- M^* は, M 中のすべての β リデックスをコントラクトムで置き換えた λ 式.
- $M \rightarrow_p N$ ならば $N \rightarrow_p M^*$ を証明できれば, $M \rightarrow_p N_1$ かつ $M \rightarrow_p N_2$ ならば, $N_1 \rightarrow_p M^*$ かつ $N_2 \rightarrow_p M^*$ が言える.

$M \rightarrow_p N$ の導出に関する帰納法で $N \rightarrow_p M^*$ を証明.

1. $M \equiv (\lambda x.M_1)M_2 \rightarrow_p N_1[x := N_2] \equiv N (M_2 \rightarrow_p N_1 \text{ かつ } M_2 \rightarrow_p N_2)$ のとき, 仮定から,

$$N_1 \rightarrow_p M_1^* \text{ かつ } N_2 \rightarrow_p M_2^*$$

したがって, 補題 3.2 から,

$$N \equiv N_1[x := N_2] \rightarrow_p M_1^*[x := M_2^*] \equiv M^*$$

2. $M \equiv M_1M_2 \rightarrow_p N_1N_2 \equiv N (M_1 \rightarrow_p N_1 \text{ かつ } M_2 \rightarrow_p N_2)$ のとき, 仮定から,

$$N_1 \rightarrow_p M_1^* \text{ かつ } N_2 \rightarrow_p M_2^*$$

したがって,

$$N \equiv N_1N_2 \rightarrow_p M_1^*M_2^* \equiv M^*$$

3. $M \equiv \lambda x.M_1 \rightarrow_p \lambda x.N_1 \equiv N (M_1 \rightarrow_p N_1)$ のとき, 場合 2 と同様.

4. $M \equiv x \rightarrow_p x \equiv N$ のとき, $N \equiv x \rightarrow_p x \equiv M^*$

■

補題 3.1 と 補題 3.3 から, $M \twoheadrightarrow_p N_1$ かつ $M \twoheadrightarrow_p N_2$ ならば, ある L が存在して, $N_1 \twoheadrightarrow_p L$ かつ $N_2 \twoheadrightarrow_p L$. また, $X \twoheadrightarrow_p Y$ と $X \twoheadrightarrow_\beta Y$ は同値. したがって, $M \twoheadrightarrow_\beta N_1$ かつ $M \twoheadrightarrow_\beta N_2$ ならば, ある L が存在して, $N_1 \twoheadrightarrow_\beta L$ かつ $N_2 \twoheadrightarrow_\beta L$.

■